研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-11C		21-060	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門　三浦克之

題名（原題／訳）

Alcohol intake trajectories during the life course and risk of alcohol-related cancer: A prospective cohort study

生涯アルコール摂取量の推移と飲酒に関連する癌のリスク:前向きコホート研究

執筆者

Bassett JK, MacInnis RJ, Yang Y, Hodge AM, Lynch BM, English DR, Giles GG, Milne RL, Jayasekara H.

掲載誌

Int J Cancer. 2022 Jul 1;151(1):56-66. doi: 10.1002/ijc.33973.

キーワード	PMID
がんリスク、コホート研究、集団軌跡モデリング、生涯飲酒量	35182083

要　旨

目的：レトロスペクティブな情報を用いて、男女別の生涯飲酒量の軌跡と飲酒関連癌のリスクとの関連を評価した。

方法：1994 年から 1990 年に Melbourne Collaborative Cohort Study に登録されたベースライン時の年齢が 40～69 歳の女性 22,756 人と男性 15,701 人を対象とした。20 歳から登録時までの普段の飲酒頻度と 1 回あたりの飲酒量を質問し、1 日飲酒量を算出した。飲酒量の軌跡を集団軌跡モデルにより女性は 3 種類（生涯禁酒、少量で安定、中等度の増加）、男性は 6 種類（生涯禁酒、少量で安定、中等度摂取、大量摂取への増加、大量摂取後の早期減少、大量摂取後の後期減少）に分類した。癌と死亡状況はビクトリア州癌登録、オーストラリア癌データベース、ビクトリア州出生・死亡・婚姻登録、全国死亡指数にて確認し、初回浸潤性原発癌（上部消化管、乳房、肝臓、大腸）の診断日、死亡、移住、またはフォローアップ終了（2017 年 12 月 31 日）のうち最も早い時点で調査を終了した。年齢を時間軸とした原発性飲酒関連癌の推定には Cox 回帰を使用し、ハザード比（HR）および 95%信頼区間（CI）を算出した。

結果：女性では 485525 人年で 2,303 件、男性では 303218 人年で 789 件の飲酒関連癌が診断された。男性では生涯禁酒と比較して 20- 39 歳の大量摂取（平均 60g/日以上）後の早期減少（40-49 歳）（HR = 1.75、95%CI：1.25-2.44）または後期減少（60-69 歳）（HR = 1. 94、95%CI：1.28-2.93）、および 20-39 歳の中等度摂取（平均 60g/日未満）から中年期の大量摂取への増加が飲酒関連癌のリスク上昇に関連していた（HR＝1.45、95%CI：1.06-1.97）。女性では、生涯禁酒と比較し、20 歳からの中等度の増加（平均 20-39g/日）は、飲酒関連癌リスクの増加と関連していた（HR = 1.25、95%CI: 1.06-1.48）。

結論：成人早期の大量飲酒は、その後の人生における癌リスクを増加させるかもしれない。